

よぬだ ところどころ



第九号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

東山は宝の山

則光や今の人にはなくてはならなかった東山

下米田に居を移してしばらくになるが、当初、地元の人と言う「東山 ヒガシヤマ」という地名に興味を持っていた。まず、「この山はどこにあるのか」ということである。周囲を見回して、「馬串山」は明瞭にわかる。「白山」もよくわかる。西脇や今、則光から見ると、その他に山らしいものは見当たらない。その後、色々と調べていくと、この東山は白山の麓の高まりを指すらしいことが分かってきた。

今の歩道橋の上から白山を見ると、上の写真のように白山の麓に水平に土地の高まりがみられる。(写真中赤線でしめしたところ)

「東」「山」と分けて考えれば、自分たちの居住地より「東にある山」ということになる。ここに権益(土地所有と入会権)を持つ人々は、則光や今の人々である。「ヒガシヤマ」と「白山」の境界は地質にあるようである。地質図をみると白山東斜面の ㊦ で表示される部分が「木曾川高位段丘」その南西が木曾川泥流の堆積物となっている。すなわち、東山の部分は、美濃帯堆積岩類からなる基盤岩の上に第四紀の堆積物が堆積した地質であることがわかる。

これは、飛騨川対岸の山之上的地質に相当する。上写真の赤線で示した部分がその境界線にあたるものである。その線に沿って、送電線の橋脚が建てられている。

この東山の部分は、江戸時代から農民の草刈り場・ため池用地として利用されてきた。農業活動には切っても切れなかった重要な土地であったことがわかる。

注 上記の図は、ジオランド岐阜の地質図である。白山の本体は美濃帯堆積岩類からなるチャート類(茶色)からなり、その西麓に高位段丘の堆積面がある。牧野にはこれがないため農業活動が阻害されたと思われる。

